

1. 第三者評価報告概要表

作成日 平成21年9月17日

【評価実施概要】

事業所番号	2872201138		
法人名	医療法人社団 順心会		
事業所名	医療法人社団順心会 グループホーム しらぎくの家		
所在地	加古川市野口町坂井字西ノ大町5-8-1 (電話) 079-430-0888		
評価機関名	株式会社H.R.コーポレーション		
所在地	兵庫県西宮市甲陽園本庄町6番8-102号		
訪問調査日	平成21年8月25日	評価結果確定日	平成21年10月16日

【情報提供票より】 (21年5月31日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15年 4月 1日		
ユニット数	1ユニット	利用定員数計	9人
職員数	7人	常勤 1人, 非常勤 6人, 常勤換算	5.5人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り	
	3階建ての	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	24,450円	その他の経費(月額)	2,300円
敷金	有(円) 無		
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円) 無	有りの場合償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,500円		

(4) 利用者の概要 (5月31日現在)

利用者人数	9名	男性 0名	女性 9名
要介護1	2	要介護2	3
要介護3	2	要介護4	2
要介護5	0	要支援2	0
年齢	平均 88歳	最低 80歳	最高 97歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	順心病院 ・ 松岡心療クリニック
---------	------------------

【第三者評価で確認されたこの事業所の特徴】

医療法人を母体としたグループホームは住宅地の一角にあり、玄関から広々とした明るい共用空間が見渡せる造りになっている。フロアのスペースには家具やテーブル・ソファを配置し、季節感のある花や装飾があり、気持ちよく過ごせる共有空間となっている。対面式のキッチンで調理しながら職員と利用者の何気ない会話や笑い声が家庭的な雰囲気を感じさせる。地域との交流は、地元の自治会との付き合いを積極的に行っており、運営推進会議にも参加があり、理解を深めている。周辺は新興住宅地が多く、若い世代の方にも理解してもらえるよう努めることを今後の課題としている。日々の生活の中で、ご利用者個々の得意なことを見極め、調理・洗濯物たたみ等、役割が活かせるように取り組んでいる。また、園芸・貼り絵・手芸・買い物などに柔軟に対応し気晴らしの支援にも力を入れている。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目: 第三者4)
	昨年度の評価結果を職員に伝達し職員全体で改善課題として取り組んでいる。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目: 第三者4)
	評価項目の理解に関して、スタッフは積極的であり、自己評価作成にも関わり、管理者がまとめあげている。今後の課題として、昨年度の評価を参考にし、職員全員で改善しようとする姿勢がうかがえる。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目: 第三者4, 5, 6)
	地域包括支援センター・民生委員・地元の老人倶楽部の参加があり、運営推進会議の組織についてよく理解してもらっている。評価の結果についても会議で報告し、今後の方針に対して前向きに検討している。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目: 第三者7, 8)
	現在、苦情や要望は殆どないが、対応できるシステムは用意されている。家族については文書にて苦情対応機関が対処する旨を伝えている。家族へは「しらぎく通信」を毎月発行しており、利用者の状況は概ね報告し、特変があった場合は速やかに連絡をとり家族の不安解消への対応を行っている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目: 第三者3)
	地元の自治会との付き合いは積極的に行っており、運営推進会議にも参加があり、理解を深めている。周辺は新興住宅地が多く、若い世代の方にも理解してもらえるよう努めることを今後の課題としている。

2. 第三者評価報告書

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「地域の交流」という文言は入っていないが、「家庭的な雰囲気」を目指し、「コミュニケーション」を図り、「その人らしい生活」を支援する、といった前向きな文言が導入されており、理念の意義については今後「地域」を意識した文言を導入することを積極的に検討する予定である。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	申し送りでケアの内容について話しあいを行っているが、理念のことは常に念頭に置いている。理念は玄関ホールに掲示しており、月1回発送する新聞にも記載してある。外部にも理念を理解してもらおう姿勢がうかがえる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地元の自治会との付き合いは積極的に行っており、運営推進会議にも参加があり、理解を深めている。周辺は新興住宅地が多く、若い世代の方にも理解してもらえよう努めることを今後の課題としている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>評価項目の理解に関して、スタッフは積極的であり、自己評価作成にも関わり、管理者がまとめあげている。今後の課題として、昨年度の評価を参考にし、職員全員で改善しようとする姿勢がうかがえる。</p>		
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>民生委員や地元の老人倶楽部の参加があり、運営推進会議の組織についてよく理解してもらっている。評価の結果についても会議で報告し、今後の方針に対して前向きに検討している。</p>		
6	9	<p>市町との連携</p> <p>事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>日常の運営について不明な点や難解な点は市に尋ねたりしているが、市役所に足を運ぶまでは至っていない。歩み寄りが必要と感じつつも今後は市の担当者と連携を深める方法を模索中である。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	「しらぎく通信」を毎月発行しており、利用者の状況は概ね報告している。月に一度の支払い日には家族に現在の状態を詳細に伝えている。特変があった場合は速やかに連絡をとり対応している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	現在、苦情や要望は殆どないが、対応できるシステムは用意されている。家族については文書にて苦情対応機関が対処する旨を伝えている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動や離職がある際は連絡を密にとることで利用者への負担を必要最小限にとどめることを心がけている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	隔月ごとに他施設と勉強会を行っており、参加者が40～50人と規模も盛大なものとなっている。内部研修会は毎月行っており、特に事故対策や安全管理については意識して取り組んでいる。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>2市2町グループホーム協会には所属しており、勉強会や相談会も行っている。交流を深めるための映画上映会や総会も開かれており、幅広いものとなっている。各職員の意識向上に努めている。</p>		
<p>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</p> <p>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</p>					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>家族からの直接の申込や老健からの依頼による入所が多い。施設で面接し、日中を過ごしてもらうことを繰り返し、馴染みながらのスムーズな入所につなげている。</p>		
<p>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</p>					
13	27	<p>利用者と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>日常の役割を利用者と共に行えるよう声かけを行っている。利用者からの要望もあり、ご利用者ができることについて尋ね、利用者と共に生活を築こうとする姿勢がうかがえる。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p> <p>1. 一人ひとりの把握</p>					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>利用者本人から聞き取ることは難しいことから、日常的な会話から意志を汲み取ることを心がけている。職員からの問いかけや仕草等から利用者の本音を理解できるよう努めている。</p>		
<p>2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>簡易的でわかりやすい介護計画をたてることを心がけている。本人の意志を尊重し、次の計画につながるよう分担制で少なくとも6ヶ月に1度は見直すように体制を整えている。</p>		<p>利用者の日々の変化や家族の現状や意向に対応していくために、状態が安定している利用者の場合も月に1回程度介護計画の振り返りや確認を行っていくことが望まれる。</p>
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>サービス担当者により計画の変更が提案されるとすみやかに対応している。カンファレンスシートや基本調査表に基づいて次の計画に移行できるよう心がけている。</p>		
<p>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</p>					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>利用者や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>定期的な受診は家族が行っているが、家族の要望に応じて職員が同行している。また、歯科・皮膚科受診の同行もしている。ご利用者の希望により買い物・喫茶店に出かけることもある。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>利用者や家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>各科の病院と提携しており、家族にも承諾を得ている。月一回の往診があり、薬も処方してもらっている。歯科・皮膚科の受診同行を行っている。認知症の専門医への受診により内服薬の処方を受け継続的な健康管理が行われている。</p>		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>重度化の対応の際は家族を含め、近隣の救急病院、主治医と話し合い、方針を決定している。重度化・終末期への対応については、ご利用者・家族話し合いを行い、利用者・家族の不安を最小限にできるように取り組んでいる。併設の老健の協力体制が整備されている。</p>		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>日々職員同士でプライバシー保護について意識し注意しあっている。ご利用者への声かけ・接し方についても尊厳への配慮と温かさが感じられる。</p>		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>1日の日課は決められているが、利用者の状況を確認しながら一人ひとりの希望に・ペースに合わせて支援し、その人らしい生活ができるよう柔軟に対応している。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>献立は、利用者の希望や季節の食材を取り入れ献立をたて、調理・配膳・後片付け・おしぼり配り等利用者の状況にあわせて一人ひとりの役割が発揮できるよう支援している。利用者と職員が食卓を囲み食事する場面から親しみが感じられる。</p>		
23	57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>3日に1回個浴にて入浴しているが、利用者の希望があればいつでも入浴することも可能である。介助が必要な利用者が増え、1日の入浴人数を少なくしてご利用者がゆっくりと入浴を楽しめるように配慮している入浴拒否があれば無理強いせず次日に入浴を変更している。</p>		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>ご利用者個々の得意なことを見極め、調理・洗濯物たたみ等、役割が活かせるように取り組んでいる。また、園芸・貼り絵・手芸・買い物などに柔軟に対応し気晴らしの支援にも力を入れている。</p>		
25	61	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>日々近くの遊歩道の散歩や施設周辺の庭での日光浴など、安全面に気をつけながら行っており、近隣の喫茶店やホームセンターへ出かけ気分転換を図っている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	<p>鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>	<p>自動ドアになっており、利用者の安全性を考え押しボタン式になっているが、利用者の行動に応じ随時開閉し動きを妨げないように支援している。施設全体はガラス張りになっており閉塞感ない。職員は施錠による弊害を理解している。</p>		
27	71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>消防署との防災訓練を定期的実施しており、夜間連絡訓練も年一回行い、さらに、2ヶ月に1回防火教育を実施している。。緊急時の連絡網も整備されている。</p>		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>献立は、利用者の希望や季節の食材を取り入れ献立をたて、新鮮な食材は毎日配達してもらい手作りの食事を提供している。また、ご利用者の状態に応じて医師の指示の下、柔軟に対応している。食事や水分の摂取量はチェックしている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>自然な光が差し込むリビングは、家具やテーブル・ソファを配置し、季節を感じる花や装飾があり、気持ちよく過ごせる共有空間となっている。対面式のキッチンで調理しながら職員と利用者の何気ない会話や笑い声が家庭的な雰囲気を感じさせる。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>自宅との違いをを最小限にするために、利用前からご利用者が使い慣れた家具や小物などの持込みを勧めご利用者が居心地良く過ごせるように取り組んでいる。</p>		

 は、重点項目。